



富士見市★市制施行50周年 記念事業

市内小中学生・富士見特別支援学校生・保護者の方向け 特別事業のお知らせ

家族だからこそ、
うまく伝わらないこともあるー



この秋、朗読劇  家族草子 を体験してみませんか

ときに切なく、ときにあたたかい、心ほぐれる家族のストーリー。誰もが経験していく日常の一コマを、お芝居と朗読をミックスした新しいスタイルでお届けするエンターテインメントです。

公演の鑑賞と、出演者の方から表現を学ぶワークショップの参加者を募集します。

公演名 朗読劇「家族草子」公演・ワークショップ
会場 富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ
ワークショップ 令和4年11月26日(土) 2時間程度
公演 令和4年11月27日(日) 1公演50分

※詳細は、市ホームページをご覧ください。

主催：富士見市舞台芸術鑑賞会実行委員会 事務局：富士見市 文化・スポーツ振興課

問合せ：TEL049-257-6352 (事務局：富士見市 文化・スポーツ振興課)



応募フォーム



市ホームページ

開催日

項目		小学生・保護者対象	中学生・保護者対象	チケット料金
ワークショップ	11月26日(土)	10:00~12:00	13:00~15:00	無料
公演	11月27日(日)	11:00~、12:30~	14:30~、16:00~	無料(自由席)

ワークショップ持ち物

筆記用具、動きやすい服装

公演演目

・後出しジャンケン ※小学生公演 双葉文庫『家族の見える場所』

あやめとかえでは幼い頃に両親が他界、姉妹ふたりきりで生きてきた。妹のかえでが結婚することになり、式の前夜、かえでは「お姉ちゃん、ジャンケンしようか」と言い出した。姉妹にとって、ジャンケンの意味とは？

・イキヌクキセキ ※中学生公演 双葉文庫『家族の見える場所』

内田は、東日本大震災で犠牲となった妹夫婦の娘・葵を引き取ることに。葵は路上で歌うストリートミュージシャンを見たことをきっかけに口数が増えたが、土日になると家を空けるようになった。その行動には理由があったのだ。

主宰・演出・音楽



主宰・原作・脚本
森 浩美

作詞家、小説家。田原俊彦「抱きしめて tonight」森川由加里「SHOW ME」SMAP「青いイナズマ」「Shake」「ダイナマイト」等ミリオンセラー多数。作品総数約 700 曲。また、家族を題材とした「家族の言い訳」「こちらの事情」「夏を拾いに」等のロングセラー小説多数。



演出
保倉 大朔

舞台芸術学院卒業後フリーで活動をスタート。2005 年、自身のユニット「uncle jam」を旗揚げ。家族草子には vol.0 から参加、vol.6 より専属演出家となり、観客の「想像力」と一緒に作品を作っていく『朗読』でもなく『演劇』でもない『家族草子』を毎回模索している。



音楽
真辺雄一郎

アコースティック・ギタリスト、作曲家。透明感、郷愁感に溢れたオリジナルソロギターアルバム「想」詩の 2 作品あり。また、他ミュージシャンのサポートをはじめ、芝居やミュージカル作品への楽曲提供、朗読劇とのコラボなど、活躍の場を広げている。

出演



松井みどり



土橋建太



佐藤貴也



青山伊津美



高島麻奈



吉本光里



小林あずさ



入澤建



藤村聖子